



GignoSystem
Japan



Information Provider



Solution

株主通信

第11期事業の報告書

2006年4月1日～2007年3月31日



Commerce



Video & Music



ジグノシステムジャパン株式会社

【証券コード：4300】



社長インタビュー

Q. 第11期の事業環境と業績についてお聞かせ下さい。

モバイルコンテンツ配信を行う「インフォメーションプロバイダー事業」を中心としていた当社は、ここ数年、放送・通信・クリエイティブ(映像・音楽制作)の総合グループへと大きく変身してまいりました。2004年10月に(株)エフエム東京と資本業務提携したのをはじめとして、2005年4月にはCM音楽制作の最大手である(株)サーティースと資本業務提携いたしました。さらに2006年には(株)サーティースが映像制作会社2社を子会社化したことで、グループの体制が整いました。

第11期は、この新しいフォーメーションを活かし、CM音楽のインターネットやモバイルでの配信に乗り出すなど、新しい体制を本格稼働させるとともに、一方で事業の選択と集中を行い、コマース事業と海外事業においては方向性の変更から事業の見直しを行いました。その結果、ほとんどの部門で黒字化を達成し、利益体質へと復活することができました。

これらの結果、連結売上高は前期比21%増の61億300万円、経常利益は3億3000万円となりました。一方不採算事業の整理に伴う特別損失の発生が影響し、当期純利益は66百万円の損失となりました。

Q. 各事業の状況の概略についてお教え下さい。

モバイルコンテンツ配信を中心としたインフォメーションプロバイダー事業は、現在売上で50%、営業利益で70%程度を占めています。ほかの事業の伸びにより、比率としては小さくなっていくと思われませんが、事業の大きな柱とし



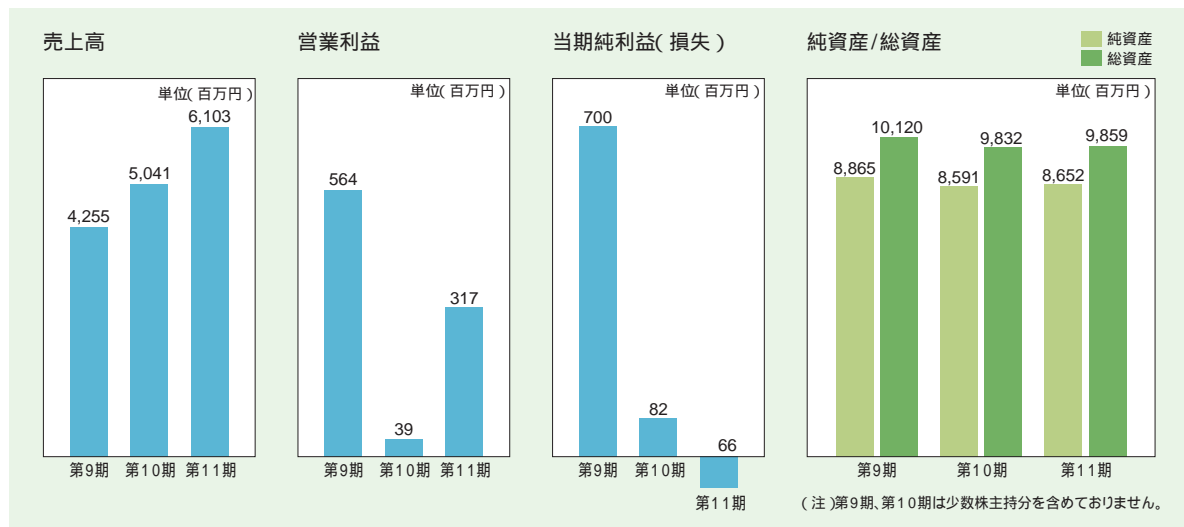
代表取締役社長 飯田 桂子

て、今後も注力してまいります。

他社向けのモバイルサイトの開発・受託・運用などを中心に手掛けてきたソリューション事業は、ラジオ局・テレビ局などクライアントさまの幅も広がり、システム開発案件のみならず、インターネット・モバイルを連動させたクロスメディア広告受託など新たな案件も順調に伸びています。

コマース事業は、残念ながら黒字化が達成できず、不採算ショップの整理を進めています。今後は、(株)エフエム東京のラジオショッピングと連動したアーティストグッズの販売など、グループの強みを発揮できる商品を中心に販売するなど、できるだけコストをかけずに再構築していきたいと考えております。

映像・音楽制作事業では、放送・通信と連動して展開で



きる当社グループの特色が認知されるようになり、CMの受注・制作本数が増えています。また、グループ内で作ったコンテンツの権利化も順調に進んでいます。

海外事業に関しましては、モバイルコンテンツのプロバイダーとしては苦戦していることから、不採算サイトの閉鎖など整理をし、結果、米国子会社は通期で黒字化、欧州子会社は第2四半期より黒字化を達成できました。今後は、当社グループのコンテンツの供給元かつ配給先としての機能を強化してまいります。

Q. 今後の戦略についてどのようにお考えですか？

デジタルラジオ、ワンセグ放送向け番組制作に関しましては、第11期にはやり残した部分が多いと感じています。

特にワンセグ放送向け番組制作は端末の普及が著しい一方で、ビジネスを手掛けている企業はまだ少ないので、他社に先駆けて魅力ある活用法・サービスを提案していきけるよう、人員も含め、体制を強化しています。今後、民放キー局、ローカルテレビ局などいろいろな会社に提案していきたいと考えております。

近年、CMのクライアントさまは、テレビだけでなく、インターネット広告との連動、楽曲・映像のダウンロードサイト、さらにはイベント実施など、クロスメディア的な展開を求めるようになっていきます。当社は放送・通信・クリエイティブのグループフォーメーションを活かし、様々なクライアントさまに最適なソリューションを提案していきたいと考えています。

Q. ジグノシステムジャパンの将来像について お話し下さい。

当社は第10期、第11期を第二創業期と位置付け、新しいグループフォーメーション作りに注力してまいりましたが、第12期(2008年3月期)からはいよいよ第二成長期に入ります。2011年に地上波のアナログ放送が終了しますが、それまでに他社より早く、どれだけデジタル放送関連の実績を積めるか、また、ますます身近になるモバイル機器に対してどれだけ新しい提案をしていけるかがポイントになると考えております。さらに、映像・音楽などでヒット番組・ヒット曲を生み出し、これらのヒットコンテンツを権利化していくことでさらに利益を出すという形で、10年、20年と続くビジネスモデルを構築してまいります。

また、将来的な構想としましては、地方の中堅企業さまに対してクオリティの高いCMを提案していくことで、新たな市場を開拓することを考えております。地方の実力企業さまのイメージアップに役立つことで、地元企業さまへの就職志望者の増加など、地方の活性化のお手伝いできればと考えております。

一般のユーザーさまにとっては携帯電話などで見ているものが放送なのか、通信なのかは関係ありません。今後、放送と通信の垣根はますます低くなっていくことは間違いありません。そうした中で、ユーザーさまにとって魅力的で利便性の高いコンテンツをクロスメディアでお届けしていきます。一方でクライアント企業の皆さまに対しては、クロスメディア展開ができる体制を活かし、最も費用対効果の高い方法でブランドイメージを高められるような広告提案をしてまいりたいと考えております。このようにして、ベス

トなソリューションをユーザーさま・クライアント企業さま双方にお届けできる企業になることを目標としております。

Q. 最後に、投資家の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社は創業当初からコーポレートガバナンスを重要な経営課題と位置付けております。情報管理につきましても、徹底した社員教育による情報セキュリティ体制の構築・確立に取り組み、2004年9月に「情報セキュリティシステムマネジメントシステム(ISMS)適合性評価制度」「BS7799:PART2:2002」の認証を同時取得、2006年9月には「ISO/IEC 27001;2005/JIS Q 27001:2006」の認証を取得するなど、情報セキュリティ体制の厳格な運用を実施してまいりました。さらに、すべてのステークホルダーさまからの信頼を得て、さらなる企業価値の向上を実現するため、今後はリスク管理、コンプライアンス(法令等遵守)、業務執行における公正性、透明性および迅速かつ適切な意思決定による効率的な経営の実現を経営の最重要課題と考え、内部統制システムを整備し、エクセレントカンパニーを目指してまいります。

ここ数年、新規事業への進出など試行錯誤が続き、ご心配をかけたかもしれませんが、ようやくコンスタントに業績を上げられるフォーメーションができあがりました。第12期以降の売上の伸びにはぜひ期待していただきたいと思います。今後は、安定した株主還元を実現するとともに、株主の皆さまに弊社の成長を楽しみにしていただけるよう、精進してまいります。

今後とも一層のご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。



グループ会社の機能

当社グループは、当社と連結子会社4社〔ジグノシステムヨーロッパ、ジグノエンタテインメント(旧ジグノシステムアメリカ)、(株)サーティース、(株)ユナイテッド・ワールド・ミュージック〕と、(株)サーティース連結子会社2社〔(株)ネクサスフィルムス、(株)オニオン〕にて構成されております。

ジグノグループと当社の親会社である(株)エフエム東京とともに、放送・通信・制作のグループ機能を活かした事業拡大に積極的に取り組んでまいります。





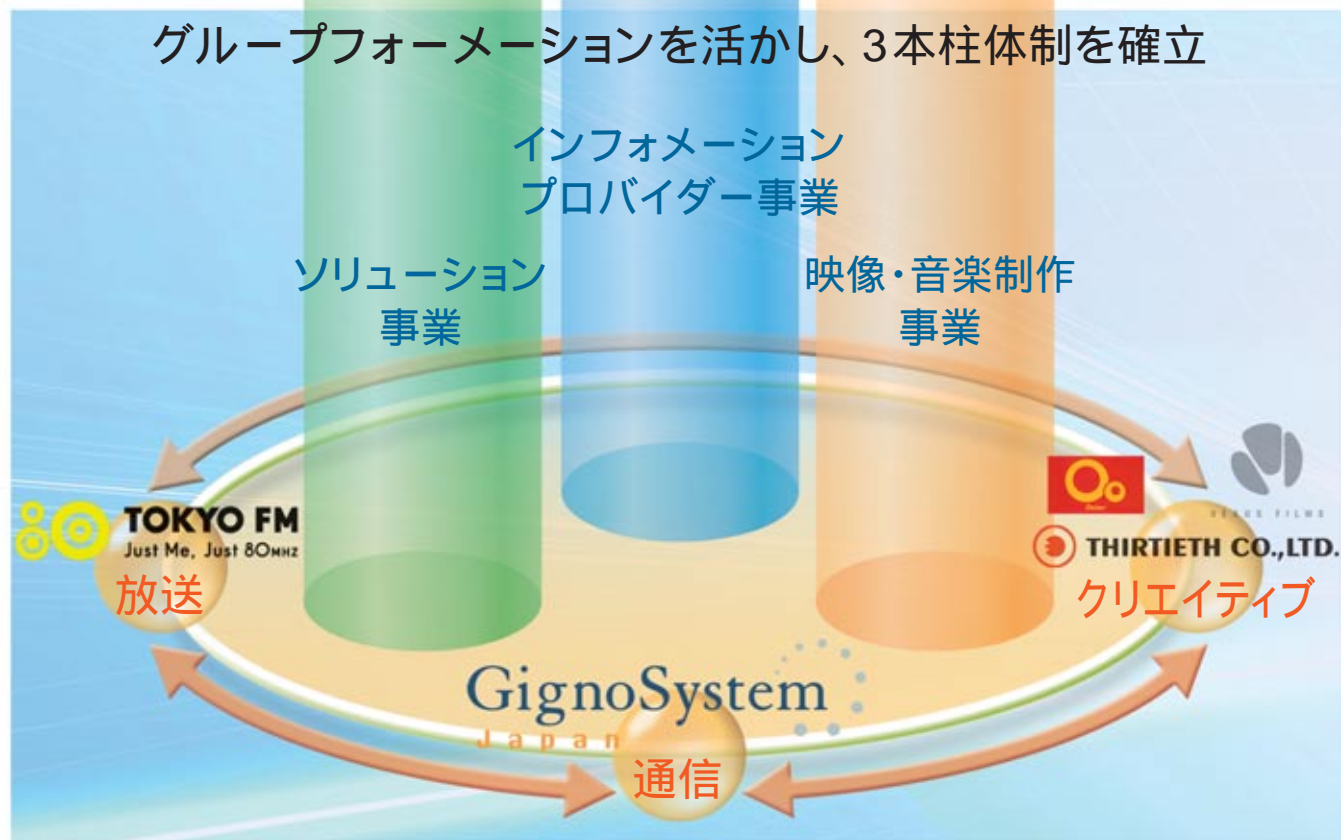
収益の3本柱をつくる

当社は1996年12月に創業し、昨年で創業10周年を迎えました。第10期、第11期を第二創業期とし、来たる第二成長期への準備の仕上げを行い、成長軌道に向かいます。

当社はインフォメーションプロバイダー事業を主要事業としてまいりましたが、ソリューション事業、映像・音楽制

作事業の収益が拡大したことにより、「インフォメーションプロバイダー事業」、「ソリューション事業」、「映像・音楽制作事業」の3本柱体制が確立しつつあります。

今後は、「放送・通信・クリエイティブ」のフォーメーションを軸にグループシナジーを強化するとともに、事業の3本柱を確立することで、高収益企業への成長を目指します。



ジグノのフォーメーション

第12期(2008年3月期)からは「第二成長期」と位置付け、グループシナジーをさらに強化し、マルチ機能型端末対応のコンテンツ等を制作し、マルチインフラで配信することができるジグノグループを目指します。





事業別概況

インフォメーションプロバイダー事業

インフォメーションプロバイダー事業では、ドコモ・KDDI・ソフトバンクモバイルなどの携帯電話事業者さま向けに、着うた®、Flash®、ゲーム、電子書籍、着せ替えツール、デコレーション/アレンジメールといったコンテンツやサービスを提供しております。

第11期は、コンテンツのリッチ化に伴い、人気のサービスがダウンロード型に変化していることから、月額有料課金ユーザー数が減少する一方で、ダウンロード課金モデルのユーザー数は増加しました。男性向けグラフィア写真集、女性向けの男性タレント写真集等の電子書籍サイトをはじめ、着せ替えサイト、Flash® サイトなどが順調に売上を伸ばしました。一方で、赤字事業であったゲームはサイトスタート時の方針を転換し、コストの削減を行った結果、当第3四半期より単月黒字化を達成しましたが、開発時の前渡金が回収できず、特別損失を計上しました。以上の結果、第11期における売上高は前期比11%減の30億26百万円、営業利益は6億31百万円となりました。

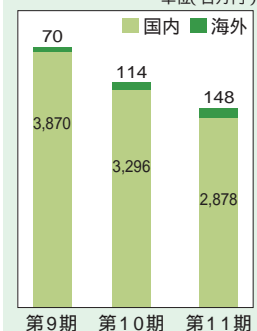
携帯コンテンツの市場は全体としては伸びていますが、無料サイトなどとの競争が激化しています。今後の戦略としましては、広告プロモーションや、無料サイトからの誘導などのマーケティングを強化し、ユーザー数の増加および売上高の拡大を目指してまいります。また、新機種新サービスへスピーディに対応し、Flash®、電子書籍など高い技術力を活かせる高付加価値コンテンツの制作に注力するとともに、著作権を持つ出版社・アーティストなどと協力したコンテンツ配信を行うなど、内容の充実を図ってまいります。



モバイル事業部

川口 ひろみ 事業部長

インフォメーション
プロバイダー事業
売上高推移 単位(百万円)



「現代芸術博覧会」

質の高いコンテンツを取り揃えた、人気の高いFlash® サイト

© GignoSystem Japan, Inc.
All rights reserved.



「セットアップ Lab」

当期間中にサービスを開始した着せ替えツールサイト

© GignoSystem Japan, Inc. All rights reserved.



「Visual ストーリー」

当期間中にサービスを開始した電子書籍サイト

© GignoSystem Japan, Inc. All rights reserved.

ソリューション事業

ソリューション事業は、主に他社向けの携帯サイトの開発・受託・運用と、モバイルを中心としたソリューションサービスを提供しています。携帯電話端末の仕様合わせ画像を自動変換する「OPTPiX GS iMageCreator」のサービスも拡大しており、また(株)エフエム東京の有料サイトをはじめ、20世紀フォックス映画など、エンターテインメント関連の公式サイトをの運営を受託いたしました。さらに、2006年10月にはワンセグ放送向けデータ制作事業を、2006年12月にはデジタルラジオ放送向けデータ制作事業を開始しました。このように、順調に業務範囲を拡大した結果、当事業の売上高は前期比51%増の5億89百万円となりました。営業利益につきましては、99百万円となりました。

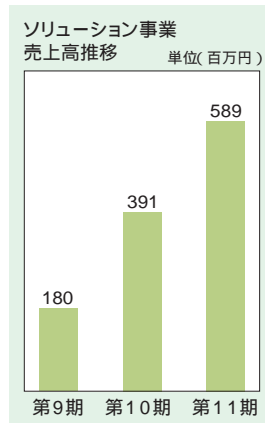
現在、(株)エフエム東京の高校生向け番組「SCHOOL OF LOCK!」の携帯サイトは、1ヶ月に5,000万ページビューという、ラジオ番組のサイトとしては最大のアクセス数を記録しています。このサイトは番組と連動したBBS(電子掲示板)やSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)がついており、高校生への浸透に極めて効果的です。携帯サイトとの連動により、同番組は高校生向けでNo.1の人気番組に成長しています。

現代の複雑化する都市生活の中では、一元的な宣伝媒体だけでは一般の消費者さまのニーズに訴えるのは難しくなっています。そういった中で、当社はインターネットのノウハウに加え、(株)エフエム東京の全国ネットメディア、サーティースグループのコンテンツ制作力といった強みがあ

ります。今後、この放送・通信・制作のグループ体制を活かし、ラジオ局、テレビ局との協業実績をもとに、消費者さまのライフスタイルに合わせた、クロスメディア企画の提案を行ってまいります。



ソリューション事業部
平 一彦 事業部長



「SCHOOL OF LOCK! UNIVERSITY」
Supported by キャンパスGO!GO!
放送局初の試みである放送連動型 SNS
© 2007 TOKYO FM Broadcasting Co., Ltd.
All rights reserved.



デジタルラジオ放送向けデータ制作例
© 2007 GignoSystem Japan, Inc.
All rights reserved.



事業別概況

映像・音楽制作事業

映像・音楽制作事業は、CM音楽制作において業界最大手である(株)サーティースと、2006年にグループ会社化したCMやプロモーションビデオ・ミュージックビデオ等の映像制作会社である(株)ネクサスフィルムと(株)オニオンの3社を中心に事業を展開しております。

2006年は「クロスメディア元年」とも言われ、テレビCMだけでは不十分だという認識が広告主さまの間で一般化し、インターネット、モバイル、イベントなどを絡めた広告展開が求められるようになっております。こうしたご要望に応えるべく、(株)エフエム東京を含めたグループシナジーの拡大と、サーティースグループ内の情報共有に努めました。トヨタの新型車「オーリス」の発売記念キャンペーンでは、音楽制作・イベント企画を(株)サーティースが、プロモーションビデオ制作を(株)ネクサスフィルムが担当しました。このように、グループでの共同受注・共同制作の実例が増えてきています。

第11期は、サッポロビールの「エビス ザ・ホップ」、花王の高級シャンプー「セグレタ」など話題性の高いCMの音楽制作のほか、映画「あなたに言える秘密のこと」のキャンペーンソング、NHKのテレビドラマ「グッジョブ」の音楽など、幅広く仕事を手掛けました。また、(株)エフエム東京、ジグノシステムジャパン(株)とのシナジーにより、クライアントさまからの信頼が高まったことに加え、若手プロデューサーの成長もあり、CM音楽制作本数が前期比15%増の1,116本となりました。以上の結果、サーティースグループは



(株)サーティース 代表取締役会長
内田 英樹氏



映画「あなたに言える秘密のこと」
イメージソング

© 2007 BMG JAPAN Inc.
All rights reserved.



資生堂マキアージュCMタイアップ曲
『My Brand New Eden』シングルジャケット

© 2007 BMG JAPAN Inc.
All rights reserved.

収益が好調に推移し、売上高は前期比149%増の21億77百万円、営業利益は95百万円となりました。

今後は、サーティースグループ内の連携を強化するとともに、クリエイティブ、メディアプランニングの面で(株)エフエム東京、ジグノシステムジャパン(株)と一層緊密に協力し、グループの総合力を活かした一括受注体制の強化を図り、さらなる事業の拡大を目指してまいります。

(株)サーティースのサイトでは、これまでに制作したCM音楽が視聴できます。
<http://www.30th.co.jp/>

経営管理部

近年、企業の情報漏えいや不祥事が相次ぎ、内部統制システムの整備に関心が高まっています。当社では、創立当初から内部統制を特別に重視し、ISO/IEC27001の取得をはじめとする管理体制の構築に注力してきました。

内部統制は、法令の遵守、資産の保全ならびに当社の財務報告に対する信頼性の確保といったことが目的となります。

当社といたしましては、こうした内部統制の目的に向かって徹底した管理業務を実践していくことが、業務の有効性および効率性を向上させ、最終的には「攻め」の効果にもつながっていくものと認識しています。

内部統制システムが健全に機能するために、当社では従業員の3分の1に当たる30人以上が参加する「リスク管理委員会」を設け、情報セキュリティとビジネスリスクの管理を行っています。また、社員全員に情報セキュリティなどに関する研修を行い、人材育成の強化を図るとともに、委員としての役割を果たす体制を構築しております。



経営管理部
吉浜 直人 部長

システムエンジニアリング部

システムエンジニアリング部は約20名の体制で、社内のITインフラの整備、データセンター、サーバシステム等、商用サービスのインフラの保守・運用、そして各事業部のモバイル/webサイト等の開発を担当しています。当社のビジネスをシステム面から支える重責ですが、部内の雰囲気は明るく、前向きに仕事に取り組んでいます。

当期より開発におけるシステムの共通化に取り組んでおり、今年度中には完成の予定です。これにより、業務が大幅に効率化できると見込んでいます。現在部内では、「縁の下の方力持ち」として事業部を通じた依頼に応えるだけでなく、外部に提供できる新技術を開発していきたいとの機運が高まっています。システムエンジニアリング部として独自に会社の成長に貢献するため、効率化によって生まれる余力を、新技術の開発に振り向けていきたいと考えています。



システムエンジニアリング部
石切山 英詔 部長



連結財務諸表

連結貸借対照表

単位:千円	第10期 (2006年3月31日現在)	第11期 (2007年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,789,965	7,414,433 *1
現金及び預金	5,968,993	5,479,314
受取手形及び売掛金	1,440,051	1,606,100
たな卸資産	30,698	49,359
繰延税金資産	16,723	22,580
その他	343,371	264,504
貸倒引当金	9,872	7,425
固定資産	2,042,586	2,444,638
有形固定資産	264,877	301,239
建物	111,960	112,036
器具及び備品	134,994	176,504
その他	17,922	12,698
無形固定資産	569,848	410,280 *2
投資その他の資産	1,207,859	1,733,117
投資有価証券	413,681	428,108
長期性預金	500,000	1,000,000
その他	294,178	305,009
資産合計	9,832,551	9,859,072
(負債の部)		
流動負債	1,028,323	1,173,540 *3
買掛金	691,165	768,776
一年以内返済予定長期借入金	34,548	31,906
未払法人税等	13,588	59,237
賞与引当金	37,393	27,312
繰延税金負債		10,696
その他	251,627	275,610
固定負債	68,250	32,792
長期借入金	55,132	23,098
その他	13,118	9,694
負債合計	1,096,573	1,206,333
(少数株主持分)		
少数株主持分	144,677	
(資本の部)		
資本金	3,342,995	
資本剰余金	3,270,153	
利益剰余金	1,966,392	
その他有価証券評価差額金	3,452	
為替換算調整勘定	8,307	
資本合計	8,591,300	
負債、少数株主持分及び資本合計	9,832,551	
(純資産の部)		
株主資本		8,378,313
資本金		3,345,562
資本剰余金		3,272,720
利益剰余金		1,760,029
評価・換算差額等		25,973
その他有価証券評価差額金		6,879
為替換算調整勘定		19,093
少数株主持分		248,452
純資産合計		8,652,739
負債純資産合計		9,859,072

連結損益計算書

単位:千円	第10期 (2005年4月1日～2006年3月31日)	第11期 (2006年4月1日～2007年3月31日)
売上高	5,041,001	6,103,744
売上原価	3,334,557	4,129,972
売上総利益	1,706,443	1,973,771
販売費及び一般管理費	1,666,781	1,655,819
営業利益	39,662	317,952
営業外収益	15,252	23,769
受取利息	1,628	12,545
受取配当金	2,276	3,457
その他営業外収益	11,348	7,767
営業外費用	37,751	11,194
新株発行費	4,032	
株式交付費		31
その他営業外費用	33,719	11,163
経常利益	17,163	330,526
特別利益	360,915	
投資有価証券売却益	360,915	
特別損失	102,480	176,501
固定資産除却損	20,380	3,885
その他の特別損失	82,100	172,616
税金等調整前当期純利益	275,598	154,025
法人税、住民税及び事業税	215,785	151,504
法人税等調整額	21,146	25,968
少数株主利益又は損失()	1,108	43,157
当期純利益又は損失()	82,067	66,604

解説

連結貸借対照表

*1: 長期性預金への振替

*2: のれん償却・減損による減少

*3: 連結子会社の増加

連結株主資本等変動計算書 (2006年4月1日 - 2007年3月31日)

単位:千円	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	3,342,995	3,270,153	1,966,392	8,579,541	3,452	8,307	11,759	144,677	8,735,978
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	2,567	2,566		5,134					5,134
剰余金の配当(注)			139,758	139,758					139,758
当期純利益又は損失()			66,604	66,604					66,604
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					3,427	10,786	14,214	103,775	117,989
連結会計年度中の変動額合計	2,567	2,566	206,362	201,228	3,427	10,786	14,214	103,775	83,239
2007年3月31日残高	3,345,562	3,272,720	1,760,029	8,378,313	6,879	19,093	25,973	248,452	8,652,739

(注)2006年6月開催の定時株主総会における利益処分項目です。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円	第10期 (2005年4月1日 - 2006年3月31日)	第11期 (2006年4月1日 - 2007年3月31日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	275,598	154,025
減価償却費	112,991	112,182
投資有価証券売却益	360,915	
売上債権の増減額(増加:)	78,327	103,028
仕入債務の増減額(減少:)	16,960	21,821
その他	58,448	217,463
小計	126,061	402,463
利息及び配当金の受取額	3,397	15,205
利息の支払額	14,385	3,772
法人税等の支払額	595,357	54,463
営業活動によるキャッシュ・フロー	732,406	359,432
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	105,378	114,426
無形固定資産の取得による支出	17,801	25,531
投資有価証券の取得による支出	100,433	25,000
その他の投資活動による支出	869,222	546,275
その他の投資活動による収入	454,879	21,690
投資活動によるキャッシュ・フロー	637,955	689,542
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(減少:)	16,320	
長期借入れによる収入	80,000	
長期借入金の返済による支出	481,529	34,676
デリバティブ解約による支出	15,360	
株式の発行による収入	10,834	5,102
配当金の支払額	139,056	138,801
財務活動によるキャッシュ・フロー	561,432	168,374
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	5,273	8,805
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:)	1,926,521	489,678
VI 現金及び現金同等物の期首残高	7,095,514	5,168,993
VII 現金及び現金同等物の期末残高	5,168,993	4,679,314



個別財務諸表

個別貸借対照表

単位:千円	第10期 (2006年3月31日現在)	第11期 (2007年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,375,454	6,492,533
現金及び預金	5,609,162	5,172,557
売掛金	1,021,592	940,361
商品	16,804	4,046
コンテンツ制作勘定	9,166	
仕掛品	3,860	575
前渡金	184,401	133,790
前払費用	28,670	22,817
繰延税金資産	15,985	21,792
関係会社貸付金	421,666	187,499
その他	72,523	14,535
貸倒引当金	8,378	5,442
固定資産	2,268,327	2,637,073
有形固定資産	143,748	189,268
建物	39,738	33,525
器具及び備品	104,010	155,743
無形固定資産	53,828	37,364
投資その他の資産	2,070,749	2,410,439
投資有価証券	413,681	428,108
長期性預金	500,000	1,000,000
その他	1,157,068	982,331
資産合計	9,643,782	9,129,607
(負債の部)		
流動負債	747,367	646,551
買掛金	517,866	427,065
未払法人税等	10,490	9,873
賞与引当金	37,058	26,669
その他	181,953	182,944
負債合計	747,367	646,551
(資本の部)		
資本金	3,342,995	
資本剰余金	3,270,153	
資本準備金	2,970,153	
その他資本剰余金	300,000	
利益剰余金	2,279,813	
当期未処分利益	2,279,813	
その他有価証券評価差額金	3,452	
資本合計	8,896,414	
負債及び資本合計	9,643,782	
(純資産の部)		
株主資本		8,476,176
資本金		3,345,562
資本剰余金		3,272,720
利益剰余金		1,857,893
評価・換算差額等		6,879
その他有価証券評価差額金		6,879
純資産合計		8,483,056
負債純資産合計		9,129,607

個別損益計算書

単位:千円	第10期 (2005年4月1日～2006年3月31日)	第11期 (2006年4月1日～2007年3月31日)
売上高	3,987,012	3,688,448
売上原価	2,509,886	2,291,462
売上総利益	1,477,125	1,396,985
販売費及び一般管理費	1,238,573	1,145,890
営業利益	238,552	251,095
営業外収益	11,848	29,487
営業外費用	21,775	6,928
経常利益	228,624	273,655
特別利益	360,915	
特別損失	79,565	459,398
税引前当期純利益又は損失()	509,974	185,743
法人税、住民税及び事業税	217,260	103,287
法人税等調整額	19,443	6,868
当期純利益又は損失()	312,156	282,162

個別株主資本等変動計算書 (2006年4月1日 - 2007年3月31日)

単位:千円	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本準備金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
			その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
2006年3月31日残高	3,342,995	2,970,153	300,000	3,270,153	2,279,813	2,279,813	8,892,962	3,452	3,452	8,896,414
事業年度中の変動額										
新株の発行	2,567	2,566		2,566			5,134			5,134
剰余金の配当(注)						139,758	139,758	139,758		139,758
当期純利益又は損失()						282,162	282,162	282,162		282,162
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									3,427	3,427
事業年度中の変動額合計	2,567	2,566		2,566	421,920	421,920	416,786	3,427	3,427	413,358
2007年3月31日残高	3,345,562	2,972,720	300,000	3,272,720	1,857,893	1,857,893	8,476,176	6,879	6,879	8,483,056

(注)2006年6月開催の定時株主総会における利益処分項目です。

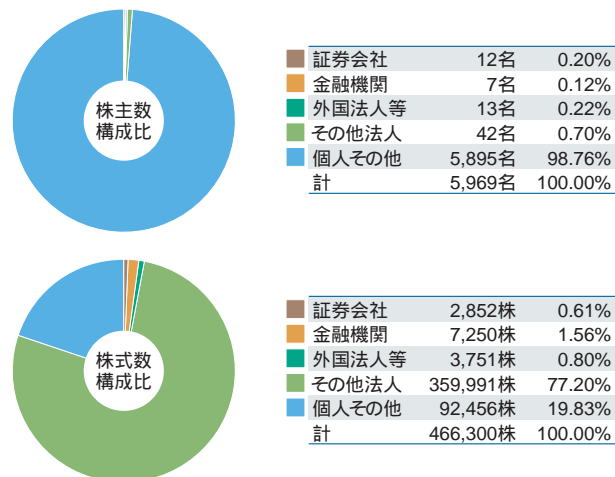
株式の状況 (2007年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,316,000株
発行済株式の総数	466,300株
株主数	5,969名

大株主 (2007年3月31日現在)

株主名	持ち株数	議決権比率
株式会社エフエム東京	250,000	53.61%
株式会社ブラザークリエイト	97,301	20.86%
株式会社リコー	9,000	1.93%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,906	1.05%
飯田 桂子	2,685	0.57%
ステートストリートバンクアントラストカンパニー	1,809	0.38%
大島 康広	1,800	0.38%
ソフトバンク株式会社	1,199	0.25%
村田 俊一	1,100	0.23%
大阪証券金融株式会社	1,057	0.22%

株式分布状況 (2007年3月31日現在)



会社概要

(2007年3月31日現在)

設立……………1996年12月
資本金……………3,345,562千円
所在地……………東京都千代田区麹町一丁目12番地
事業内容……………インフォメーションプロバイダー事業(国内・海外)
ソリューション事業
コマース事業
映像・音楽制作事業
連結子会社…株式会社サーティース
(株式会社サーティース連結子会社:
株式会社ネクサスフィルムズ 株式会社オニオン)
株式会社ユナイテッド・ワールド・ミュージック
ジグノエンタテインメント(旧ジグノシステムアメリカ)
ジグノシステムヨーロッパ
人数……………(単体)111名(役員・社員・契約社員・派遣社員)
(連結)182名(役員・社員・契約社員・派遣社員)

取締役及び監査役

(2007年6月27日現在)

代表取締役会長……………池田 実
代表取締役社長……………飯田 桂子
専務取締役……………西川 守
常務取締役……………吉浜 直人
常務取締役……………平 一彦
取締役……………唐島 夏生
常勤監査役……………近藤 恵
監査役……………木田 正幸
監査役……………岡田 亘弘
監査役……………関田 好久

<http://www.gignosystem.com/>



当社のホームページは株主・投資家の皆さまに対して、企業情報、IR情報をはじめとした、積極的な情報開示を行っております。

株主メモ

事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会……………毎年6月
基準日……………3月31日
剰余金の配当の基準日…9月30日、3月31日
株主名簿管理人……………三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所……………東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先)……………〒137 8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)
同取次所……………三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告の方法……………電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL……………<http://www.gignosystem.com/>

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主さまは、お取引口座のある証券会社にご照会下さい。

GignoSystem
Japan

ジグノシステムジャパン株式会社



環境に優しい植物性大豆インキを使用しております。



古紙配合率100%再生紙を使用しております。